

戦後の日米球界と歩んだ男

米大リーグ（MLB）はイチローさんや大谷翔平選手の活躍で、今や日本のプロ野球に負けない人気だが、「その礎をつくった男」と呼ばれる人がある。西脇市の歯科医で、戦後間もない頃から大リーグの試合をラジオで聞いて米球界に人脈を築いた故・今里純さんだ。その足跡を紹介する初の伝記「ベースボールと野球を繋いだ男」（ヘソノオ・パブリッシング）が出版された。

ラジオ観戦しながらスコアブックに記録する今里純さん
（竹本武志さん著書から）



西脇ゆかり 故・今里純さん ラジオ通じ人脈 スターと交流、野球理論紹介も

今里さんは1928（昭和3年）大阪市で生まれ、大阪歯科大学専門学校（現大阪歯科大学）を卒業後、歯科医になった。大リーグと英語が好きで、戦後は進駐軍向けの短波放送を聞きながらスコアブックに記録。分からないプレーや専門用語は放送局に手紙を書いて質問した。次々と手紙を送ってくる今里さんに感心した放送局スタッフは、ゲーム中継の途中、「日本のイマザト、でも熱心なファンとして知られるようになった。」とアナウンスするように。選手の間でも熱心なファンとして知られるようになった。



デトロイト・タイガースが来日した際に撮影した記念写真。（左から）今里さん、シエフィン監督、吉田義男さん（竹本武志さん著書から）

著書で今里さんの功績を紹介した元教諭の竹本武志さん＝西脇市内



終戦から13年後の58（昭和33）年、セントルイス・カージナルスが日米野球のために来日。米国関係者が「イマザトを紹介してくれ」と依頼し、国内でも存在が知られるようになった。米国の野球理論書を取り

ラジオのゲーム中継を聞きながら今里さんが記したスコアブック

寄せ、翻訳して日本の選手や監督にアドバイスしたことも。その一例が、左投手には右打者、逆に右投手には左打者が有利という「ツープラトンシステム」。プロ、アマを問わず定着した基本策だが、最初に日本で紹介したのが今里さんだったとされる。

60年代に入ると渡米して大リーグの試合を観戦しながら日本の球界ともつながり、通算755本塁打を放ったハンク・アーロンさんや野村克也さん、村山実さん、吉田義男さん（いずれも故人）ら日米のスターと交流を重ねた。阪神タイガースの関係者とは特に親密で、阪神の米国キャンプや、デトロイト・タイガースとの交流に尽力した。

◆ 今回、伝記を出版した西脇市の元教諭・竹本武志さん（76）が今里さんを知ったのは2008年。吉田さんが新聞記事で「今里さんこそ最高の大リーグ通」と紹介したのを当時の来住寿一

・西脇市長が誘い、地元のアマ球界に詳しい竹本さんに調査を依頼した。今里さんはその5年前、75歳で亡くなったが、妻の幸子さん、長男の聡さんを訪ね、膨大な資料を見せてもらった。その数は数千点に上った。

手書きのスコアブック、大リーグ選手の年間記録をつづったノート、手紙、記念写真、サインボール……。傘立てにはアーロンのサインバットがあった。驚きました。野球ファンにとつての宝物が山積みされていました。資料は現在、西脇市内の施設に保管されているほか、米国野球殿堂博物館にも寄贈されたという。

竹本さんは資料を分析し、12年には西脇市で「今里純野球展」を開催。さらに吉田さんらを訪ねてエピソードを追加し、伝記「ベースボールと」を完成させた。

大リーグでプレーする日本人選手の活躍が連日、日米のメディアで伝えられる。「その礎をつくった一人に西脇の歯科医がいることを、多くの人に伝えたい」と竹本さんは話す。